会 議 記 録				
会 議 の 名 称	議 会 運 営 委 員 会			会 議 場 所 全 員 協 議 会 室
				担 当 職 員 加 藤 太 郎
日 時	令 和 3 年 7 月 2 8 日 (水 曜 日)	開 議	午 前 1 0 時 0 0 分	
		閉 議	午 前 1 1 時 4 7 分	
出 席 委 員	◎木曾 ○西口 大塚 山本 松山 菱田 並河(委員外議員) 欠席:三上 ＜福井議長、小川副議長＞			
執 行 機 関 出 席 者				
事 務 局 出 席 者	山内事務局長、井上次長、加藤副課長、熊谷総務係長、佐藤主任、小野主任			
傍 聴	可	市 民 1 名	報 道 関 係 者 0 名	議 員 1 名 (小 松)

会 議 の 概 要

1 0 : 0 0

[木曾委員長 開議]

＜木曾委員長＞

本日、三上委員から疾病により欠席届が提出されている。会議規則の中で、議会運営委員会の委員が欠席する場合、その会派に属する議員の中から他の議員が委員外議員として出席し、委員長の許可を得た場合は発言できるとなっている。共産党議員団から並河議員が委員外議員として出席し、発言されることを許可したいがどうか。

—全員了—

＜木曾委員長＞

そのように取り計らう。

[事務局長 日程説明]

1 0 : 0 2

1 議会活性化の検討について

(1) 早期検討項目について

[事務局副課長 配付資料確認、別紙No.1 説明]

＜木曾委員長＞

この内容で進めていきたいがどうか。

—全員了—

＜木曾委員長＞

それでは別紙No.2に基づき、順次検討していく。

項目No.2 本会議場での休憩時間の取り扱い

[事務局副課長 説明]

＜木曾委員長＞

議場内へのマイボトルの持ち込みについては、既に6月議会で実施しており、当面続けていくことでよいか。

—全員了—

休憩時間については、6月議会・9月議会・12月議会と3月議会では状況が異なるので、分けて考えていく。6月議会・9月議会・12月議会であるが、午前中に3人続くのが厳しいとの意見もあり、そうすると一般質問の日程を3日間から4日間にすることも考えられる。

<松山委員>

日程は4日間がよい。2人質問して休憩する形を繰り返してはどうか。

<菱田委員>

連続2人で10分程度の休憩を挟んでも、日程は大きくずれないのではないかと。午前2人の後に10分程の休憩、午後2人の後に10分程の休憩を入れると、午前終了と午後開始がそれぞれ10分程度遅くなり、その日の終了時間は20分程度遅くなるが、これまでどおり3日間の日程で可能ではないか。

<木曾委員長>

菱田委員の案では、午前の終了が12時25分、午後の開始が1時25分となり、それぞれの日の終了時間は20分程度遅くなるが、これまでどおりできるのではないかと。この意見である。これまでどおりの3日間の案と、余裕を持った4日間の案の2案が出ている。

<山本委員>

1日の終わりの時間が遅くなるようであれば、4日間でもよいのではないかと。

<事務局副課長>

3日間とする場合、2日目で考えると、現状から午前・午後とも10分間の休憩を加えることになるので、午後の終了は20分遅くなり5時35分となってしまふ。

<並河委員外議員>

過去にはもっと遅くまで開催しており、質問中に退席することもできるので、現状でよいのではないかと。

<大塚委員>

9月議会は決算審査があり会期が長いので、延ばさないほうがよいが、6月議会と12月議会は余裕を持って1日延ばしてもよい。

<木曾委員長>

職員の勤務時間のことも含めて、働き方改革の観点からすれば、初めからあまり遅くまでの日程は組めない。できるだけスムーズかつコンスタントに進めていったほうがよいのではないかと。このことも考え方にに入れていただきたい。また、コロナ禍でもあり長時間になることは避けたほうがよいと思うが、議事を進行いただく議長の考えは。

<福井議長>

一般質問の日程を1日延ばすことで、後の審議時間が短くなったり、予備日がなくなるのであれば本末転倒である。また、議事進行する感覚でいうと、連続3人を仕切るのは非常にしんどい面があるので、連続2人とするのが適切ではないかと。午前10時始まりを前倒しして9時30分からにできないか。

<木曾委員長>

今は通年議会であるので、日程にこだわることなく、4日間で余裕を持って対応してはどうか。できるだけ時間内に終わる日程とするほうが、理事者側も事務局もよいと思うし、アクシデントにも対応できる。

<西口副委員長>

本会議中に席を立つことがなくなるように、休憩時間はしっかりと確保すればよい。2案提案されているが、事務局はどのように考えているのか。

<事務局副課長>

皆さんの意見を集約する中で、6月議会・9月議会・12月議会の一般質問については、連続2人まで続けて、引き続く場合は休憩を挟むことで整理したい。また、実施日数については、3日間の場合と4日間の場合を何通りかシミュレーションして次回に提示したい。

<事務局長>

合意できる点としては、連続2人までを最大とし、3人は避けたほうがよいとのことで共通していた。理事者のことも配慮する中で対応していくとのことである。期間を3日間とするか4日間とするかで意見が分かれている状況である。次回には事務局でいろいろなパターンを用意するので、それを基に検討、決定していただきたい。なお、開始時間を早めてはどうかとの意見があったが、会議規則において午前10時から午後5時までと定められており、変更するのであれば規則改正が必要となってくるので、他市の状況も見ていってはどうか。

<木曾委員長>

会議規則では午前10時から開始となっている。開始時間を早めるとなると会議規則の改正が伴ってきて、若干このテーマとは違うことになってくる。今回は委員からそれぞれ出た検討材料の中で進めていきたいと思う。事務局には、一般質問3日間と4日間の2案について、休憩時間を考慮したシミュレーションで表にしていたら、次回、手元資料として見て、検討し決定していきたいがどうか。

—全員了—

<木曾委員長>

検討継続とする。

項目No.6 一般質問の個人質問時間配分の変更

[項目No.2の検討に引き続いたため説明なし]

<木曾委員長>

項目No.2と関連する内容があるが、3月議会の一般質問時間について検討したい。3月議会は一般質問1日目が代表質問であるが、状況はどうか。

<事務局長>

一般質問1日目の代表質問であるが、午前中は1人目が答弁含まず40分で、答弁を含めると倍の80分程度の実績である。引き続き2人目が質問のみ40分行い、トータルで大体120分で午前が終了となる。午後からは2人目質問後の答弁がされて、引き続き3人目の質問・答弁となる。そのあと休憩を挟み4人目が行って午後4時40分終了予定であり、午後5時までには全員が終了している実績となっている。

<木曾委員長>

2人目のタイミングがずれており、本来は質問後に答弁があるほうがよいが、代表質問についてはこれまでどおりでよいか。

<松山委員>

今の形には違和感があるので、整理できたらよい。質問と答弁を一体にする考え方で、2人目の答弁を前倒しするか、2人目以降を午後にしてはどうか。

<菱田委員>

代表質問の2人目は1時間のインターバルがあるので、答弁を貰うほうからすれば気の毒であるが、午後に3人入れると、間に休憩を10分入れることを考慮すれば5時20分終了となり5時を過ぎてしまう。先ほど委員長からあったように、できるだけ時間内に終わることを考えると外れることになるので、これまでどおりとするのがよいのではないか。

<松山委員>

代表質問を1日目に4人集めずに、一般質問の日数を増やし、個人質問と組み合わせて2日目以降にも代表質問を割り当てることで、対応は可能であると思う。質問と答弁の間に1時間のインターバルがあることはよくない。

<山本委員>

質問と答弁の間が1時間空くことは、本人だけでなく傍聴者のこともあるので、できれば続けて実施するほうが望ましい。ただし、午前中を2人にすれば午後1時頃までとなり、昼休憩を1時間挟んで、3人目が午後2時頃のスタートとなる。

<並河委員外議員>

時間配分は難しいが、答弁も含めて2人目まで終了してから昼休憩に入ればよい。

<菱田委員>

時間配分の仕方である。3月議会の日程はハードなので、予備日はしっかり確保していきたい。2日目以降で工夫ができるのであれば、代表質問2人目の質問と答弁のインターバルをなくしていけると思う。

<木曾委員長>

常に議論できる時間を確保することで通年議会となった。それを生かす方法を考えないといけない。通年議会として十分な会期が取れており、施政方針に対する代表質問となるので、日程を窮屈にせずしっかりそこで議論していきたい。4会派が代表質問を1日で行う先入観は外して検討したい。これもシミュレーションしていただくことでよいか。

—全員了—

<木曾委員長>

もう一つは個人質問時間であるが、会派按分するとどうしても時間オーバーしてしまう。せっかく通告しても時間がなくなって質問できなくなることがあるので、ほかの議会と同じように、答弁を含めて時間設定するほうがよいのではないかとこの意見である。

<菱田委員>

そのほうがよい。以前は全ての議会で代表質問があり、個人質問を限定する形をとっていたが、今は3月議会だけ従来の形が残っている。議員も答弁込みの個人質問に慣れているので、時間配分をどのようにするかは別に議論したらよいが、3月議会も答弁込みの時間設定にしたらよい。

<山本委員>

そのとおりでよい。

<松山委員>

そのとおりでよい。

<木曾委員長>

あくまでも議員個人の質問権であり、会派の按分ではないことを理解いただき、進めたい。3月議会の個人質問についても、ほかの議会と同様、質問と答弁を合わせた時間設定の形とする。事務局には、一般質問の期間や代表質問の日程の検討も含

めて、シミュレーションした資料を次回の委員会に出していただきたい。出されたパターンを基に検討して、よりよい案を決定し、来年の3月議会でテスト的に実施していきたいがどうか。

—全員了—

<木曾委員長>

検討継続とする。

<事務局長>

3月議会については、代表質問が答弁含んで80分程度になると想定している。個人質問よりも大分長くなっており、一般質問をシミュレーションするにあたり、個人質問について、3月議会以外と同じく答弁含む45分とするほか、3月議会における個人質問の実績が約40分であることから、委員の了承が得られれば、答弁含む40分についても検討したい。年度末で会期を延ばしにくい状況であることから、選択肢の一つとして示したい。

<木曾委員長>

これまでの個人質問における時間配分を見ると、実績が約40分である。個人質問については、答弁含む40分と45分のシミュレーションを作成することで整理したいがよいか。

—全員了—

項目No.4 決算事務事業評価の再考

[事務局副課長 説明]

<木曾委員長>

前回の検討経過等や現況等を踏まえて、決算審査資料である令和2年度決算に関する主要施策報告書が届き次第、各常任委員会決算分科会で事前勉強会を実施して、決算審査に臨んでいただくことになっている。検討終了でよいか。

—全員了—

項目No.10-2 本会議場のBGM

[事務局副課長 説明]

<木曾委員長>

BGMを流していくことで意見が一致している。どの時間にどのような音楽を流すのかを検討したい。BGMを流す時間は、会議開始前20分程度でよいか。

—全員了—

<木曾委員長>

幾つか音楽を聴いていただく。

- ・川のせせらぎと鳥のさえずり
- ・ACCON HIBINO氏の曲（昼休憩時に庁舎内で流れているもの）
- ・うつくしもの

<菱田委員>

曲は事務局に任せることでどうか。

<木曾委員長>

事務局どうか。

<事務局副課長>

その時々、正副議長と正副委員長に相談させていただき、決定していきたい。

<木曾委員長>

そのようなことでよいか。

—全員了—

<木曾委員長>

本会議開始前と休憩時（本会議再開前）に20分程度、議場内にBGMを流すことと、事務局に選曲いただくことで検討終了とする。

項目No.1 1 亀岡市ホームページに合わせた、亀岡市議会のページのリニューアル
[事務局副課長 説明]

<木曾委員長>

議会ホームページについては、広報プロモーション課と協力してできるだけよいものにしていきたい。議会運営委員会で細かく作業していくことは難しいので、広報広聴会議で検討いただき、最終的な内容が決定すれば報告を受けて進めていきたいがどうか。

—全員了—

<福井議長>

市長に一度話をしているが、サブサイトの制作費は議会には掛かってこないのか。

<事務局副課長>

基本的にサブサイトは、職員が作成していくので費用は掛からないが、サブサイトでできる以上の特別なページを作成するとなれば、費用が別途掛かってくるようである。ちなみに、ふるさと納税のページについては、別途作成していると聞いている。

<木曾委員長>

広報プロモーション課と連携して、広報広聴会議で作業していただくが、サブサイト以上のことをしていくことになると予算措置が必要となるので、そのときは議長からもお願いしていただきたい。検討継続とするが、検討体制を③その他として、広報広聴会議での検討とする。

項目No.1 2 会派の行政視察報告をホームページで公開
[事務局副課長 説明]

<木曾委員長>

進めていくことで整理したものである。ホームページで公開する以上は、統一した様式としたい。参考資料として、各委員会の行政視察に係る調査報告書の様式を配っているが、写真や交換した名刺の添付などを含めて、報告内容についての意見をいただきたい。

<松山委員>

この形で統一して、一度やってみればよい。

<菱田委員>

委員会の調査報告書については、会議規則で様式が定められているのか。

<事務局副課長>

会議規則110条には報告書の提出が規定されているが、様式については定められていない。

<菱田委員>

報告書の様式が次々変わるのはいくないので、慎重に決めていきたい。

<山本委員>

この様式で検討したらよい。

<並河委員外議員>

この様式に写真や資料を添付したらよい。

<木曾委員長>

このような様式で進めていくこととするが、ホームページで公開していくので、報告内容に加えて、写真や交換名刺の取り扱いなどを整理したいと思う。一度会派に持ち帰って検討いただき、その検討内容を報告書案に反映させたいがどうか。

—全員了—

<山本委員>

これまで会派の行政視察報告は、各議員が視察の感想や意見など書いて報告している。これからは会派代表が一つにまとめて報告するのか、それともこれまでどおり個人が報告するのか。

<木曾委員長>

会派の視察であるので、基本的には会派で取りまとめて報告するのが正しいと思う。会派で視察内容を掌握し整理した中で、代表者から報告書を提出するほうがよい。

<西口副委員長>

そのとおりである。

<福井議長>

政務活動費は交付の仕方が会派であるが、議員個人に対するものではないのか。会派として視察に行くものだが、議員個人の報告書ではなくて、会派として一つの報告書でよいのか。会派として政務活動費が支給されているのであればよいがどうか。

<木曾委員長>

政務活動費の申請や収支報告は会派の幹事長名で行っている。あくまでも個人には支給していない。小松議員のように一人の会派であっても同じである。このことから、会派から報告書を提出するのが望ましいと思うが、事務局はどうか。

<事務局長>

そのとおりである。規定上、会派に対して政務活動費を交付するものである。積算根拠は一人当たり月額1万5,000円であるが、支給・申請・報告の全てが会派からの形である。

<木曾委員長>

政務調査費から政務活動費に変更されたときに、整理されたと認識している。会派から報告書を提出することで整理する。報告書の様式や記載内容について、各会派で検討いただく。

項目No.14 議員研修（全国都市問題会議等）の検討

[事務局副課長 説明]

<木曾委員長>

全議員を対象とした出張による研修については、亀岡市を含めて4市のみが実施しているので、政務活動費を使っただけの研修参加はあると思う。今期は1年目に全国都市問題会議に行っており、昨年度は中止となった。今年度はコロナの状況にもよるが、今のところ開催予定となっており、中止となった場合の対応や来期に向けて検討していくことになる。

<菱田委員>

全国都市問題会議が今年度も中止になると、17期の最終年度に18人が対象となるので、そうなれば対象者全員が全国都市問題会議に行くのではなく、議長が選定し認めた研修も対象にしてはどうか。それを踏まえて、18期に向けた検討に入ればよい。

<松山委員>

いろいろな研修があるので、研修目的が明確にできたものに対しては、個々でもよいのではないか。内容次第では、全国都市問題会議に固執しなくてもよく、いろいろな研修会に出席できる一定のルールが作れば、理にかなうような考え方になると思う。

<山本委員>

今期は1年目に6人が全国都市問題会議に参加しているので、最終年度までに残り全員がどこかの研修会に参加できる方向にしていきたい。また、議長会フォーラムなどほかの研修会への参加も考えられるものであり、行き先や府内11市が全員で行っていないことも踏まえて、今後考えていきたい。

<並河委員外議員>

基本としては全国都市問題会議でよいと思うが、その時々でこのような事態が生じたときに、議長会フォーラムなどの研修会に行ける選択肢が必要である。会派が違う議員が同じ研修に行くことも大事なことはないか。そのほかの研修については、会派の研修として参加することもできると思う。

<木曾委員長>

今年度については、まだ予定がはっきりしていない。10月に開催されるかどうか確定してから、もう一度検討したい。来期についてもそのときに議論したいと思う。委員の意見にもあったように、研修は目的をしっかりとって参加することが大事である。

<福井議長>

今年度の全国都市問題会議が中止になれば、来年度は議員18人が研修に参加することになるので、そうなれば、全国都市問題会議以外でも、議長会フォーラムなどほかの研修会への参加もよいと思う。ただし、この4年間は全国都市問題会議に参加することが、政務活動費以外の予算で認められているが、それぞれ行き先が違う研修会に参加することになれば、予算措置が難しいのではないか。

<事務局長>

予算的には難しい面があるが、今年度の全国都市問題会議は、先般案内が届いて開催予定であり、議長会フォーラムは、案内がまだ届いていない状況である。18期に向けての検討になるかもしれないが、それぞれ半分ずつ予算計上させていただき、出席者を調整することも考えられる。大勢の議員が参加できる研修会は、数が限られており、代表的なものは全国都市問題会議と議長会フォーラムの二つである。

<木曾委員長>

事務局長からあったように、全国都市問題会議と議長会フォーラムに半数ずつ参加することや、議員一人あたりの単価を算出して政務活動費に上乘せし、目的を持った活動にすることも考えられる。できるだけ活動しやすい形になればよいのではないか。今年度は開催される方向であるが、来期に向けて整理していきたいので、各会派で検討いただきたいがどうか。

—全員了—

<木曾委員長>

早期検討の7項目について協議させていただいた。事務局には、本日の検討結果について整理していただき、まとめたものを各委員へ報告願う。各委員は整理された内容について会派で検討いただき、次回の議会運営委員会で報告いただくこととする。

<事務局副課長>

本日の検討内容を整理して報告させていただく。また、一般質問日程のシミュレーションなど、指示いただいた資料を整えたい。

11:42

2 その他

(1) 報告事項

<事務局長>

早稲田大学マニフェスト研究所が実施している議会改革度調査2020の結果が発表された。回答があった1,404議会のうち、201位の順位であった。京都市を含めた府内15市の中では6番目である。昨年度の42位から大きく順位を下げることになり、事務局として申し訳なく思っている。順位を下げた最大の要因として、コロナ禍で重要視されている会議のオンライン化などICT活用も含めた、情報通信面での機能強化の遅れが影響しているのではないかと考えている。幸いにも今年度については、繰越事業としてタブレット端末の導入を予定しており、現在鋭意、業者の決定や契約締結に向けて事務を進めているところである。早期購入の上で、タブレット端末を有効に活用できるように進める中で、情報通信面の機能強化の遅れを回復して参りたい。

(2) 次回の日程について

<木曾委員長>

次回の議会活性化の検討に係る議会運営委員会は、8月18日(水)午前10時から開催したい。

—全員了—

<木曾委員長>

常任委員会等については、それぞれ会議への遅延がないように、各会派で日程確認願う。

<事務局長>

9月議会の議案送付日として、8月23日(月)午前10時30分から議会運営委員会を開催し、また、正副議長と正副委員長には、8月20日(金)午前11時から議運事前調整をお願いする。

散会 11:47